

兵高教組 調査情報

2022年2月18日 28号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

県教委が2月17日に公表 2023年4月から 出石特別支援学校と豊岡聴覚特別支援学校を統合 両校の教職員や保護者の意向を聞かずに決定

2022年2月17日、兵庫県教育委員会は、幼児児童生徒の今後の減少を理由に、集団学習など、より質の高い教育の実現を趣旨として、出石特別支援学校と豊岡聴覚特別支援学校の発展的統合計画を公表しました。しかし、この統合は、両校の教職員や保護者の意向は反映せず、さらには但馬地域の聴覚教育の実情なども考慮せずに、決定されたものです。両校分会、そして教職員は、突然の発表に大きなショックを受け、県教委への不信感や怒りを募らせています。障教組は2月17日付で抗議文を發出しましたが、高教組としても、この唐突な統合計画の白紙撤回を求めて、取り組みを進めていきます。

統合計画の概要

・時期	2023年4月
・学校名	未定(今後検討)
・場所	現出石特別支援学校所在地
・設置学部	聴覚障害部門 保育相談部 幼稚部 小学部 中学部 知的障害部門 小学部 中学部 高等部
・通学区域	豊岡市 養父市の一部(八鹿青溪中学校及び関宮学園校区)
・教育相談等	聴覚障害 但馬及び丹波地域 知的障害 通学区域と同様

豊ろう分会・学校の思い

本校教職員や保護者にとって寝耳に水の発表でした。県は、両校の学習集団を保障すること、小規模校の教職員の負担を軽減することを統合の理由に挙げています。しかし、統合した学校の設置学部や校区設定、地域支援の区域設定など、但馬の聴覚障害児を完全に切り捨てる内容ばかりで、大きなショックを受けています。学校の統合が必要なら、なぜ、但馬の現場の声を聞いてくれないのか、聴覚障害児の学習集団保障を考えもせず、数を合わせただけの統合案を考えた県教育委員会への不信感と怒りでいっぱいです。

本校は昭和23年に但馬の聴覚障害教育の拠点として開校しました。700名を超える卒業生を送り出し、現在も卒業生の拠り所となっています。但馬だけでなく、丹波地域の聴覚障害児の支援もしてきました。丹波地域は神戸にも姫路にも遠く、昔から寄宿舎を使って本校に入学してきました。入学希望の子どもが存在を知らず、その寄宿舎も廃止されます。新生児聴覚スクリーニング検査が普及する中、聴覚障害の新生児の相談が増えていきます。保育相談部を新設しながら、通学区域で入学を制限しています。手塩にかけて支援した子どもが入学できず他校にゆだねることが、早期からの一貫した教育といえるのでしょうか。また、本校では、長年、聴覚重複生徒の進路が課題で、高等部設置の要求も挙げてきました。しかし、今回の統合では、聴覚障害部門に高等部はありません。小～中～高の一貫教育と言いながら、聴覚障害の生徒は高等部では知的障害部門に行かなければならないのです。特別支援教育の現場にいるみなさんなら、この矛盾をお分かりだと思います。但馬や丹波の実情や聴覚障害児教育を全く考えず、財政的な観点からだけ、少数の但馬と丹波の聴覚障害児が切り捨てられる統合なのです。

私たちは、今回の統合の撤回と但馬と丹波の聴覚障害教育を守る教育条件の確立を強く求めています。

障教組が抗議声明

但馬の聴覚障害支援の切り捨てにつながりかねない
豊岡聴覚特別支援学校と出石特別支援学校の統合案に抗議します

2022年2月17日、兵庫県教育委員会(以下、県教委)は令和5年度に両校を「発展的統合」させ、今の出石特別支援学校の校地に新しい校名で特別支援学校を開校することを公表しました。両校とも幼児児童生徒数が減少し、集団学習や教職員の校務に支障をきたしているというのが、県教委の言う統合の理由です。私たちは以下の理由で、この計画の撤回・見直しを要求します。

まず、県教委は、この統廃合を、早くから検討していたにもかかわらず、両校教職員や保護者には全く知らせず、その意向も聞かないまま決定したことです。今後、統廃合までの準備期間はたったの1年しかなく、教育課程の調整、専門的な支援のための環境整備など課題は山のようにあり、両校とも日々の業務をこなしながらの準備となり、到底間に合いません。

そもそも出石特別支援学校については、校舎の老朽化や運動場がないことなど施設設備の課題は多く、組合でも長年改善を要求してきたところでした。一方、豊岡聴覚特別支援学校は市の中心地にあり、利便性が高く、設備も充実し、インクルーシブ教育の理念である「地域で最大限の発達が保障される」という環境が整っています。しかし、それをさらに充実させるどころか、投げうって統合するという方針は、兵庫県政が推し進めようとしている「効率化・合理化」に他なりません。こうした方針は、ひとり一人の教育的ニーズに丁寧寄り添う障害児教育とは全く相いれないものであるとともに、但馬全体の教育の切り捨てにもつながりかねないものであり、到底納得できるものではありません。

私たちは、県教委が、突然の計画発表で混乱の渦中にある両校教職員と保護者、そして但馬の地域住民の声に真摯に向き合い、そのことを通して、この豊岡聴覚特別支援学校と出石特別支援学校の統合案を撤回・見直すこと、そのことを強く要望するものです。

2022年2月17日

兵庫県障害児学校教職員組合 執行委員長 中西園枝